

かゑらじと かねて思へハ 梓弓
 なき数に入る 名をぞとどむる
 四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第6号

平成27年3月10日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

吉野を出でてうち向う、飯盛山のまつかぜに

青葉茂れる桜井の・・・、桜井の決別と四條畷の合戦をうたった歌

楠正行に関わる歌と言えば、四條畷の合戦の様子をうたった「四條畷」、そして楠公父子桜井の訣別を歌った「青葉茂れる桜井の」の2曲があまりにも有名です。

この歌を歌うと、おのずと桜井での別れや四條畷の合戦の戦いの様子や光景が浮かぶことでしょう。

かれの首を取らずんば、
 ふたたび生きて還るまじ。

三 決死の勇にあたりかね、
 もろくも敵は崩れたち、
 一陣、二陣、おちいりて、
 本陣危うく見えにけり。

四 めぎすかたきの師直と、
 思いて討ちしその首は、
 敵のはかれるいつわりか。
 欺かれしぞくちおしき。

五 なおも屈せず追うてゆく。
 されど、身方は小勢なり。
 あらての敵は、遠巻きに、
 雨のごとくに矢を注ぐ。

六 今はやみなん。この野辺に
 すつる命は、君のため。
 なき数にいる名を止めて、



いでや、誉を世にのこせ。

七 枕ならべて、もろともに、
 一族郎党ことごとく、
 消えし草葉の露の玉、
 光は千代をてらすなり。

八 今も雲居に声するは、
 四條畷のほととぎす。
 わか木の楠のかぐわしき
 ほまれや人に語るらん。

— 「新編教育唱歌集(五)」(明治29・5)より

四 條 畷

大和田建樹 作詞

- 一 吉野を出でて、うち向う、
 飯盛山のまつかぜに、
 なびくは雲か白旗か。
 ひびくは、敵の鬨の声。
- 二 あな、物々し、八万騎。
 大将師直いずくにか。

四 条 畷

大和田建樹 作詞
 小山作之助 作曲

よしのをいでてーうちむこう
 いもりやまのーまつかぜに
 なびくはくもかーしらはたか
 ひびくはてきのーときのこえ

*作曲は小山作之助。短調のヨナメキ音階を用いて日本人の好む悲壮感をとらえ、旋律も美しい。

小山作之助(1863~1927)は文部省音楽取調掛第二回全科卒業生(明治20年)で、そのまま母校(明治21年、東京音楽学校となる)に残り教授となり、40歳で退官。

唱歌作曲には優秀なものが多く、民族性をよくとらえ、愛唱された歌が多い。

桜井訣別

落合直文 作詞

一 青葉茂れる桜井の
里のわたりの夕まぐれ
木の下陰に駒とめて
世の行く末をつくづく
忍ぶ鎧の袖の上に
散るは涙かはた露か

二 正成涙を打ち払い
我が子正行呼び寄せて
父は兵庫に赴かん
彼方の浦にて討死せん
汝はここ迄来つれども
とくとく帰れ故郷へ

三 父上いかにのたもうも
見捨てまつりて我ひとり
いかに帰らん帰られん
この正行は年こそは
未だ若けれ諸共に
御共仕えん死出の旅

四 汝をここより帰さんは
我が私の為ならず
おのれ討死為さんには
世は尊氏の儘ならん
早く生い立ち大君に
仕えまつれよ国の為

五 この一刀は往にし年
君の賜いしものなるぞ
この世の別れの形見にと
汝にこれを贈りてん
ゆけよ正行故郷へ
老いたる母の待ちまさん

六 共に見送り見返りて
別れを惜しむ折からに
またも降りくる五月雨の
空に聞こゆる時鳥
誰か哀れと聞かざらん
あわれ血に泣くその声を

七 遠く沖べを見渡せば
浮かべる舟のその数は
幾千万ともしら波の

此方をさして寄せて来ぬ
陸はいかにと眺むれば
見方は早くも破られて

八 須磨と明石の浦づたい
敵の旗のみ打ちなびく
吹く松風か白波か
よせ来る波か松風か
響き響きて聞ゆなり
つづみの音に関の声

九 いかに正季我々の
命捨つべき時は来ぬ
死す時死なでながらえ
死するに勝る恥あらん
太刀の折れなんそれまでは
敵のことごと一方より

十 斬りてすてなん屠りてん
進め進めと言ひ言ひて
駆け入るさまの勇ましや
右より敵のよせくるは
左の方へと薙ぎ払い
左の方よりよせくるは

十一 右の方へと薙ぎ払う
前よりよするその敵も
後よりするその敵も
見てはのがさじのがさじと
奮いたたかう右左
とびくる矢数は雨あられ

十二 君の御為と昨日今日
あまたの敵に当たりしが

時いたらぬをいかにせん
心ばかりははやれども
刃は折れぬ矢はつきぬ
馬もおれぬつわ者も

十三 かしこの家にたどりゆき
共に腹をば切りなんと
刀を杖に立ち上がる
身にはあまたの痛矢串
戸を押し開けて内に入り
共に鎧の紐とけば

十四 緋おどしならぬくれないの
血汐したたる小手の上
心残りはあらずやと
兄のことばに弟は
これみなかねての覚悟なり
何か嘆かん今さらに

十五 さはいえ悔し願わくは
七度この世に生れ来て
憎き敵を滅ぼさん
さなりさなりとうなずきて
水泡と消えし同胞の
心も清き湊川

一 「日本唱歌集」岩波書店刊より

*作詞者落合直史は(1861~1903)
は国文学者で歌人。作曲者奥山朝恭
(1858~1943)は兵庫県立師範学校
教諭在職中にこの歌を作曲。岡山後
樂園に『湊川』歌曲碑が建つ。
(文責:「四條啜楠正行の会」代表
扇谷 昭)

青葉茂れる桜井の

©コロンビア 曲
落合直文 作詞
奥山朝恭 作曲

♩ = 114

あーおばしげれるさくらのの さーとのわたりの
ゆうまぐれ このしたかーげにこまとめて
よのゆくすーえをつくづくとしーのおよろいの
そでのえにちーるはなみだかはたつゆか